

里山のくらしや文化を学ぶ

筑波ふれあいの里を会場に、山里の暮らしに根ざしたみそづくり、水車を使ったそば打ち体験が行われました。

100キロのみそづくりに挑む！

今回100キロのみそづくりの体験講座が、2月21日筑波ふれあいの里で開かれた。これは、筑波ふれあいの里が行っている事業で、親子連れなど45名が参加した。

みそづくりは、寒仕込みといって冬から春にかけて仕込むのが、雑菌の繁殖を防ぐのに一番いいといわれている。100キロのみそづくり指導してくれたのは、つくば環境フォーラムの田中ひとみさんとメンバーの方々。みそづくりは、原料の大豆を水にひたしてから仕込みまで3日かかると作業だが、今回は前日までに大豆をやわらかく煮る行程まで終らせてある。



うまく大豆がつぶれたかな

①大豆をつぶす
やわらかく煮た大豆をビニール袋に入れて、上からめん棒でたたいてつぶす。「パンパン」と元気のいい音が建物全体にこだましている。

②塩切りこうじと大豆をまぜあわせる
清潔なビニールシートの上に、つぶした大豆をうつし、塩切りこうじ（こうじに塩をまぜたもの）とまぜあわせる「粘土細工みたいだ」と喜んではいやく子どもたちの姿は、やる気いっぱいだ。



みんなでまぜあわせませす！

③みそ玉をつくる

しっかりとまぜあわせたものを丸めて、空気を抜くように容器のまわりに押し付けてつめていく。仕込み終えたみそは一組につき約4キロ。温度変化の少ない場所で保管しておく、秋頃にはおいしいみそになる。

昼食は、炭火で焼いた五平餅、みそこんにやくに具だくさんのみそ汁。どれも昨年作ったみそをたっぷり使ったごちそうだ。
里山の風景の中で、地元でとれた大豆とこうじを使い、45名の手が加わったぜいたくなみそは、きつと極上の味に仕上がるに違いない。

上野節子(小沢地区)

水車のそば挽きとそば打ちを体験

筑波山麓では、かつて、豊かな沢水を利用して水車で粉挽き業を営む家々があったという。そんな里の暮らしに思いを馳せ、筑波ふれあいの里に復元された水車の石臼でそば挽き、そばを打つ体験イベントが3月7日にあった。

①水車のそば挽き
近年、筑波山麓

の森が手入れ不足で保水力が落ち、動力不足が続いていた水車だが、このところの雨で沢水が増し勢いよく回ってくれた。水車が生んだ動力を木の歯車で伝え重い石臼を回す仕組みは、すばらしい先人の智慧だ。石臼で挽くと、熱が出ないため、風味が損なわれずおいしい。「すごいね」「なるほど」と子どもも大人も石臼の動きを見まもっていた。



水車の中では石臼が回っています

勢いよく回る水車

組でそば打ち体験がはじまった。そば粉は地元つくば市小田産。この日初めて顔をあわせた者同士も、共同作業に和気あいあい。最初の水回しが大切

という講師の長島忠雄氏の言葉に、慎重に水を入れ、粉と水が馴染むように混ぜていく。生地がまとまると手のひらを使ってこね、めん棒で伸ばして、たたんで切ると生そばの完成。沸騰した湯で3分ゆでて冷水でしめるとできあがり。自分たちで打ったそばの味は格別。「自分で一度作ってみたかった」「おいしかった」と参加者は皆満足そうだった。



生地をめん棒でのばします

つくばスタイル協議会は、つくば地域ならではの、都市・自然・知の魅力「つくばスタイル」を応援しています。http://www.tsukuba-style.jp/

すそみろく

第15号



筑波山の山麓一帯を「すそみ」と名づけました

第15号 (平成22年3月25日)

発行・すそみろく編集委員会

TEL029-866-1122 (田井の里地域づくり愛好会・森田)
TEL029-863-5151 (NPO 法人つくば環境フォーラム・田中)

木を切ったり植えたり、草摘みにみそづくり…山里はもう春本番

まだ寒い1月から、春らしくなってきた3月まで、すそみと呼ばれる山里では、さまざまな行事が行われました。

20年経って鳥居に！

杉ノ木稻荷神社の鳥居が十数年ぶりに新しくなりました。

以前の鳥居はスギの木で作られていましたが、傷みがひどくなり、1月17日に、杉ノ木地区の皆さんの手でヒノキの新しい鳥居に建て替えられました。

その日は朝から地区の方々20名ほどが神社に集まり、沼尻直次区長の指示のもと作業に取りかかりました。切った木を鳥居に組み上げる班、鳥居に色を塗る班、梅の木の剪定をする班、下草刈りの班に分かれてきびきと作業が進められていきます。直径25センチ以上もあるヒノキの丸太は、去年のうちに切り出し、皮をむいてあります。20年以上も前に、この日のために植えられたヒノキです。その木にほぞを作り、組み上げていくのは、地元の棟梁の榎戸



神社に集まった杉ノ木地区の皆さん

きいに生まれ変わった鳥居は、冬の日差しの中、誇らしげに輝いてみえました。それを見上げる杉ノ木地区の皆さんの顔も満足げに輝いていました。 小沢陽子(漆所地区)



組み上がっていく新しい鳥居

こんなに太い丸太です！

②そば打ち
そば打ち施設に移動して、3人一

すそみの森づくり

3月22日、田井の里地域づくり愛好会とつくば環境フォーラムが共催で「植樹祭」を開催。

この植樹祭はパルシステム茨城の支援で実施。耕作放棄地を整備し、ヤマザクラ、シダレザクラやコナラの苗木200本を植えました。当日は、親子づれや子どもたち、地域の皆さん合わせて74人が参加し、一緒にいねいに苗木を植えていきました。 神郡店長さんなど(株)ローソンの方々のボランティア参加もありました。これに先立つ3月9日には、日本テレビ「走魂」の収録がこの地域で行われ、ジャーニーズ事務所所属のグループNEWSのメンバー4名が植樹を体験しました。



こんなにたくさんの方が参加してくださいました

様々な方々が森づくりに参加し、筑波山麓の里山の整備が進んでいます。美しい景観、豊かな自然は地域の財産です。これからも森づくりへのご参加ご協力をお願いします。 田中ひとみ(つくば環境フォーラム)